

しびれの原因あれこれ

「たかが、しびれくらい」「と言うなかれ。すでに手遅れというものもある。が、いつに病気の初期で、患者さんには分からないしびれだと、ホント、医者泣かせである。

57歳のN子さん。この頃、左手がしびれる。「脳腫瘍が心配で」と言うが、しびれるのは主に小指と薬指だ。脳の病気なら、手が全体にしびれる。むしろ、「頬杖ほおすえをついたらしびれが強くなる。時に、腕から指に痛みが走る」とのこと。手の筋肉には萎縮はなく、指の動きに異常はない。が、肘の内側を通る尺骨神経を障害する。「肘部管症候群ひじぶかんしょうぐん」だろう。

ところが、「ずっと肩凝りがひどいし、肩から腕にかけても痛い」と、N子さんの訴えは尽きない。話しながら少しずつ症状を思い出すタイプなのか。「車の運転で腕を挙げてハンドルを握っていると、左手がしびれてくる」ときた。

確かに、特定の姿勢を取ってもらって、左手首の脈が触れにくくなる。肩の痛みや、腕の拳上によるしびれは、肘部管症候

群では説明できない。となれば、鎖骨の下で、腕のほうへ走る神経や血管が圧迫されて起きる「胸郭出口症候群きょうかくしゅつぐうしょうぐん」も否定できない。

背髄から出て手足の先まで走る末梢神すいせうしん経は、その経路の途中、さまざま部位で損傷や圧迫により障害される。2カ所で障害されれば、症状がより強く現れるようである。これを「ダブルクラッシュ症候群」という。

そういえば、N子さんに頸椎けいついの変形もある。としたら、しびれと頸椎症の関係も否定できない。そうだ。治療中の糖尿病も影響しているかもしれない。

なら、「マルチクラッシュ症候群」とでも呼ぼうか。となれば、整形外科や脳神経内科の先生にも診みもらったほうがよい。しびれには、患者さんファーストの診療提携は欠かせない。で、医者のストレスも軽くなる。

(石黒修三いしぐろしゅうざんいしごろクリニック・脳神経外科専門医・2/22北國新聞掲載)